

令和3（2021）年度 第2回かしわざきこども大学運営協議会 議事録

- * 日 時 令和3（2021）年10月18日（月） 午後6時30分～午後7時35分
- * 会 場 柏崎市役所 4階 4-3、4-4会議室
- * 出席委員 7名 長谷川智委員、山崎高美委員、前澤佳奈子委員、遠山みちる委員、松谷久美子委員、川本浩子委員、土田由紀委員
- * 欠席委員 片桐秀樹委員、松木万里央委員
- * 事務局 8名 飯田博教育部長、【学校教育課】池田弘課長、小山勲課長代理、平野克之副主任、横田則子主査【保育課】栗林課長代理【商業観光課】佐藤駿介主事

1 開会 司会：学校教育課課長代理

本日、片桐委員と松木委員のお二人は都合により欠席。かしわざきこども大学運営協議会設置条例第6条第2項により過半数を満たしていることを報告する。

2 挨拶 会長

第1回の運営協議会が5月25日に開催され、5か月がたった。前回、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるっている中で、今後どうなるのだろうかという不安の中で会を進めていたが、少しずつ落ち着いてきている。決して油断はできない状況ではあるが、少し先が見えてきたのかなという気もしている。子ども達も少しずつ日常の活動を取り戻しつつあると思う。

今日は、かしわざきこども大学の活動について中間報告があるが、委員の皆さまから忌憚のない御意見を伺いたい。

3 議事 進行：長谷川議長

(1) 令和3年度（2021年度）事業実施状況について 【事務局】

・自然体験コースについて

今年度は、現時点まで予定どおり実施している。

資料に7月2日 柏崎二葉幼稚園 夢の森公園 泥遊び体験の追記をお願いします。

今年度は、計30の園が自然体験コースの利用。どの体験活動についても、普段の園生活だけでは体験できない活動メニューであり、園児たちの生き生きとした表情が見られたといった報告が提出されている。

・キャリア教育コース（いきいきゲーム）

今年度は、翔洋中等教育学校、柏崎小学校の2校で実施済み。

他の4校について、新型コロナウイルス感染症は落ち着いており、予定どおり実施の見込み。

参加生徒からは、「周りの人と話し合い助け合うことが大切だと思った。」「今日の授業を通して仕事をする楽しさ・面白さを学んだ。」という感想があった。

先生方からは、「生徒たちが考えて行動していた。」ことや、「普段教卓・教壇の前に立っているけれども、普段とは違った視点で児童の姿を見ることができた。」という感想があった。

また、保護者の方からは、「1回目のゲームでは動きが鈍かったけれども、振り返りをいかして

2回目のゲームでは役割分担がしっかりと行われていて、短時間で成長を見ることができた。」と、とても好評を頂いた。

ゲームの実施前と後で同じアンケートを取った結果、全ての項目において「すごく良かった」の割合が高くなった。体験してみて、良かったと感じた児童生徒が多かったことが分かる。

資料の裏面に当日の写真も掲載した。感染症対策として、今回は手指消毒等に加えて保護者と生徒の間にアクリル板を設置した。残りの4回についても、アクリル板の設置等、感染症対策をして実施する。

・ロボット工作コース

ロボット工作コースでは、各小学校でのロボット工作クラブと2月又3月に予定しているロボット工作教室の2つの内容を実施。

各小学校のクラブ活動については、予定どおり実施している。

9月に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、新潟県の特別警報が発令されたが、その際は大学生の訪問を控えていただき実施した。二田小学校は、日程を別日に変更して警報期間後に実施。荒浜小学校は、最終日が警報の期間になっていたがZOOM（オンライン）を使って、学生が遠隔で指導し、実施した。

実際に何回か小学校のクラブ活動の様子を見たが、児童がいきいきとロボット制作に取り組んでいる様子が印象的だった。参加児童のアンケート等はクラブ又は教室が終了後に報告する。

・ドリームコース

①アニマルウェルフェア教室～動物と人との幸せな関係～

企画者 柏崎市青少年健全育成市民会議

アンケートによると、参加者のうち8名の方は、家で何かしらの動物を飼っていると回答。「今回の講演会と催しを通して動物の気持ちや幸せを考えてみようと思いますか。」という問いには、回答者全員13名が「思う」と回答。「今日分かったことをお友達に教えたいですか。」という設問に12名が「教えたい。」と回答。

事業費のうち、かしわざきこども大学から負担金として、88,140円を支出。

②トライウォーク2021 企画者 柏崎市青少年健全育成市民会議

10月10日に実施。負担金190,000円を支出する見込み。

その他、こどもの笑顔創造プロジェクト、学校教育活動推進事業は予定どおり実施され、第3回の会議で報告予定。

－質疑・応答－

【委員】 キャリア教育コースについて、いきいきゲームは大変良い事業。ぜひ多くの学校に実施いただきたいと考えるが、毎年同じ学校で実施されているようだ。来年度に向けてはPRなども考えてもらいたい。ゲームを通して、子どもたちが「将来への希望を持たせ」とか「失敗は成功の元」と自覚しているようなので、希望する。

【委員】 こども大学には、様々な事業があるが、各学校あるいは保育園幼稚園等にどのような形で周知しているか。

【事務局】 各コースそれぞれに対象者も異なっているため、それぞれの時期で周知している。自然体験コースは、2月頃に幼稚園保育園に対して、希望調査している。

キャリア教育コース、ロボット工作コースについては、学校のカリキュラムとの兼ね合いもあり、年度初めの4月早々に希望調査をしている。

こどもの笑顔創造プロジェクトは1月、ドリームコースについては、2月の広報かしわざきに記事を掲載。募集の対象が広いので、なるべく多くの方の目に触れることを狙い、広報かしわざきと市ホームページを媒体としている。

また、こどもの笑顔創造プロジェクトは、各地区のコミュニティセンターに対し、直接メールで案内を送付している。

予算の議決が3月後半であり、あまり早い時期から周知することはできないが、タイミングを計って周知を図っている。何か良い周知方法を提案いただければ、検討したい。

【委員】 可能であれば、いきいきゲームやロボット工作クラブは、実施したことのない学校から見学に来ていただくのはどうか。

特にいきいきゲームは、イメージが湧かないかもしれないので、一日でなく少しの時間でも見ていただけると、次年度に取り入れていただけるかもしれない。

【事務局】 提案ありがたい。方法については商業観光課と相談していきたい。

科学・実験コースについて、今年度、「STKサイエンスを楽しむ会」による実施が出来ず、7月に事業実施者を公募したが応募がなかった。前回の会議では教育センターの科学班に打診したいと報告したが、教育センターは同じ市の組織であり負担金として支出するのが難しい。ふさわしい方がいれば、委員の方からもお声掛けいただきたい。

【委員】 実施団体は、市内の方でないか。

【事務局】 応募の資格としては市内の方だけではなく個人・団体・法人の方としている。ただし政治団体や宗教団体には、遠慮いただいている。

【委員】 今は大学も地域に関わるということで、活動視野を広げている。長岡技術科学大学や柏崎の新潟工科大学もある。こういうことがやりたいという団体と、受け取る側がうまくマッチングしていないところもあるようだ。上越教育大学などもいろいろな活動しており、小学校課程などの教育課程がある。科学の出前授業もしているようなので可能性としてはあると思う。

【委員】 大学等が行っている科学・実験コースに関わる市民講座があれば、かしわざきこども大学の事業として取り上げられるかどうか打診もしてみてもどうか。

(2) 令和4年度(2022年度)実施予定事業、予算案について

－質疑・応答－

【委員】 キャリア教育コースは15クラスで算出しているが、今年は16クラスで実施いる。希望が多くなった場合、対応可能か。また、科学・実験コースについて、「STKサイエンスを楽しむ会」は、来年度事業を行ってもらえるのか。

【事務局】 キャリア教育コースについて、15クラス分を予算としている。今年度は、昨年度(新型コロナウイルス感染症の影響により)実施できなかった学年について希望があり、対応した。来年度、15クラス以上の応募があった場合には、実施校を選定し、予算の範囲内で実施したい。

科学・実験コースについて、「STKサイエンスを楽しむ会」は、しばらくは難しいと伺った。今年度、新たな実施団体が見つければ、来年度以降もお願いするか改めて公募にするか検討したい。

【委員】 「STKサイエンスを楽しむ会」が、科学・実験コースを担当したのは何年か。

【事務局】 令和2年度(2020年度)の1年間。かつてドリームコースとして「STKサイエン

スを楽しむ会」が科学実験教室を実施したが、大変好評であり科学・実験コースを新設した。

(3)その他

【委員】 子どもたち、とりわけ幼児が遊びの中から学ぶ力は大きいと聞いている。自然体験コースについて、各園で体験プログラムを選んでいると思う。できれば、プログラムではなくジャングルのような未知のところへ子どもたちが入って学ぶ機会があってもいいのではないか。米パン作りなどは、園の中でもできると思うが。もっと自然の中で取り組んでいくようなものをしてはどうか

【委員】 柏崎二葉幼稚園では、泥んこ遊びを実施した。フィールドが整っており、普段、園では絶対に体験できない、全身泥まみれになって楽しむことを夢の森公園で体験した。

各園によっても考え方がるので、子どもたちのために何をやりたいか先生方が選んでいると思う。柏崎には自然活動をする環境があるのに、もったいないかなとも感じる。

【委員】 米パン作りは、自然体験コースの対象外とするか。

【事務局】 米パン作りは、人気がある体験メニューであり、残していきたいと考えている。米パン作りをしている間に、吊橋を渡りに行って散策をしたり、自然体験もしている。

各園とも泥んこ遊びやニンニン修行など、いろいろなメニューを選んでいただけるようになってきている。

【委員】 自然体験コースの今年度実施状況を見ると、29園490人の園児が利用している。来年の予算は550人の予算を組んでいる。算出根拠はどうか。

【事務局】 予算の算出根拠については、今年度の年中児の数を確認し、550人としている。実施しない園もあるので、人数の差が出ている。

【委員】 自然体験コースの実施は、年長児だけなのか。

【事務局】 年長児だけである。

【委員】 西山自然体験交流施設ゆうぎでの活動は、どのような体験か。

【事務局】 木工工作等のプログラムである。

【委員】 こども大学のためのプログラムではなく、もともとゆうぎで行っているものか。

【事務局】 西山自然体験交流施設ゆうぎでの体験プログラムを利用するという形である。

4 連絡事項

【事務局】

(1)こども育成基金への寄附報告

・今後のこども育成基金について

今、年間1,000万円ずつ事業で使われており、かしわざき子ども育成基金の残高が減少している。基金の今後の在り方について、委員の皆さんの御意見を頂きたい。

【議長】 大体年間1,000万円弱使われ、今まで通りに事業をやっていけば、約5年間で基金が尽きるという状況である。早いうちから手を打つ必要があるか、自然にこのまま進めていくのがよいか、皆さんから御意見をお聞きしたい。

【委員】 自然体験コースについて、バスの借上げ費用がかさんでいる。園バスがある園は、市のバスは利用しないで実施している。プログラムの負担金は現状維持としながら、バスを持っている園は自園のバスを利用するか、あるいは半額の補助にするか、それぞれの園で状況は違うと思うが、削減はできる可能性はあると思う。

- 【事務局】 今年度も、私立の幼稚園は、各園のバスで行っている。バスを持っていない保育園と公立の保育園のバス代を計上して、およそ110万円かかっている。
保育課と協議・検討していきたい。
- 【委員】 かしわざきこども大学の事業で、小中学生はスクールバスを利用しているのか。
- 【事務局】 他のコースにおいて、小学生がバスで移動するものはない。
- 【委員】 こどもの笑顔創造プロジェクトの中でどこかへ行くというときにスクールバスは使えるのか。
- 【事務局】 こどもの笑顔創造プロジェクト補助金の交付申請時、予算の中でバス借り上げ料として計上している場合がある。その場合でも、補助金上限額の30万円の範囲で収まっている。バスの借り上げ料として予算計上しているのは、自然体験コースのみである。
- 【委員】 今のコースのうち、削減できる予算を削ったり、科学・実験コースは実施団体が無いようなら廃止するなど、優先順位は皆さんで考えていくことだと思う。
①削っていく方向でいくのか。
②それとも削ったりしないで、このまま終わるまで続けていくのか。
③基金が尽きたときに財源を市の別の所から捻出できる可能性があるか。
- 【委員】 委員も事務局もぜひ御検討いただきたい。
北日本エンジニアリング株式会社から通算18回目の寄附があったようだが。
- 【事務局】 北日本エンジニアリング株式会社から長年にわたり、多くの寄附を頂いており、感謝状の授与について推薦させていただきたいと考えている。まずは、教育委員会表彰ということになるが、正式に決まり次第、報告する。
- 【委員】 ぜひ推薦していただきたい。
- 【委員】 先日、2020年度の実施報告書を頂いた。前年度まで細かい字が並んでいたところもあったが、今年度は見やすく、分かりやすかった。

5 閉会 教育部長

かしわざき子ども育成基金を使って、かしわざきこども大学事業を10年以上行ってきた。基金の残高が減少し、非常に大きなターニングポイントに来ている。

来年度から第5次総合計画の後期基本計画がスタートする。重点戦略の一つが「こどもを取り巻く環境の充実」となっている。こどもを取り巻く環境が非常に厳しい状況にあるが、柏崎の将来を担う子どもたちを大事に育てることが一つの大きな柱となっている。そういった視点で皆様からも今後のことについて意見を賜りたい。かしわざきこども大学が続く限り、すばらしい事業となるように、協力をお願いします。